

信濃町商工会管内景気動向

【第Ⅲ四半期(R3年10月～12月)】調査報告書

調査の趣旨

企業を取り巻く経営環境の変化に対応する為、地域産業振興施策と事業者支援施策の為景気動向について調査を実施

調査方法

期間：2022年1月11日～1月31日

対象：信濃町商工会会員 313人

方法：アンケート用紙郵送による 手回収及びFAXによる回収

調査結果概要

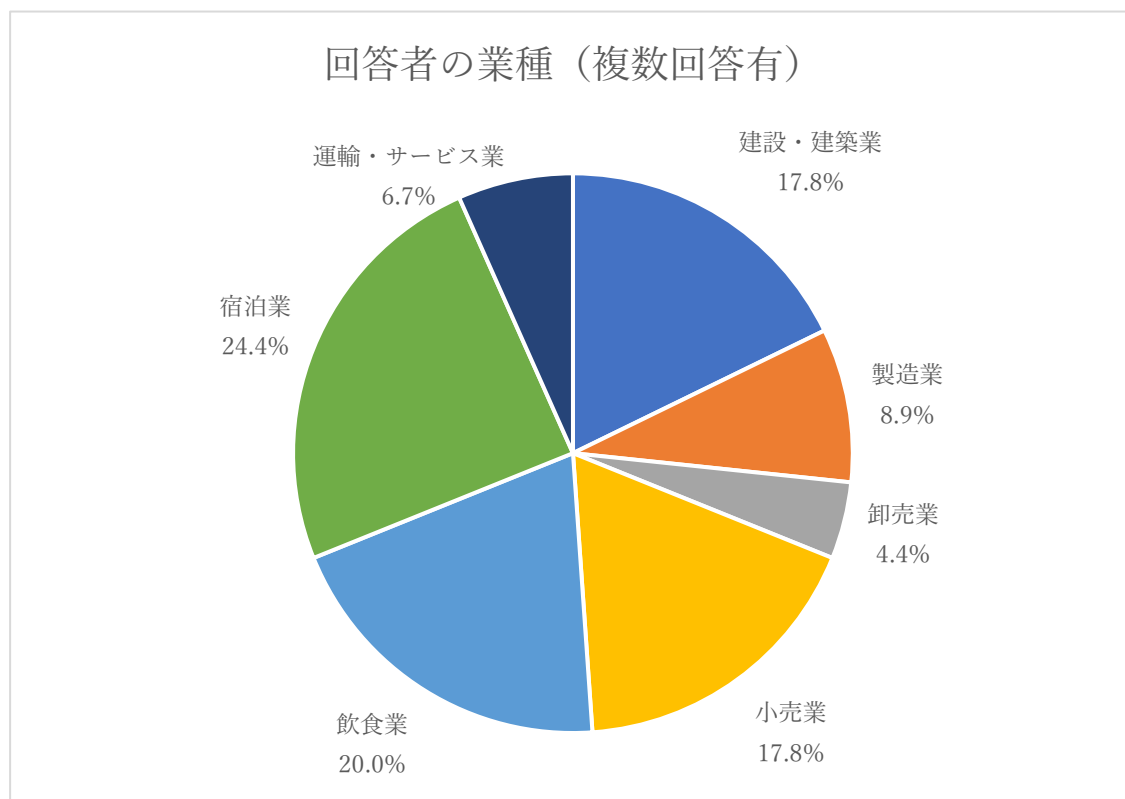
建設業を中心に、ウツショックによる材料の入手困難・価格上昇による仕入価格の上昇が課題との回答があり、取引高・売上高実績及び利益状況の減少要因と考えられる。

また、宿泊業については、コロナの影響による売上減少が続いており、各種助成金等の支援を引続き行っていく必要があると思われる。

DX（デジタルトランスフォーメーション）の取り組み状況については、取り組んでいる事業者は少なく、その必要性も感じていないとの回答が多く見られたが、具体的な効果や補助金によるサポートなどの支援により、推進に繋がる可能性はあるように思う。すでに取り組んでいる事業者においては、業務全体のDXに取り組んでいるとの回答もあった。

回答者の業種

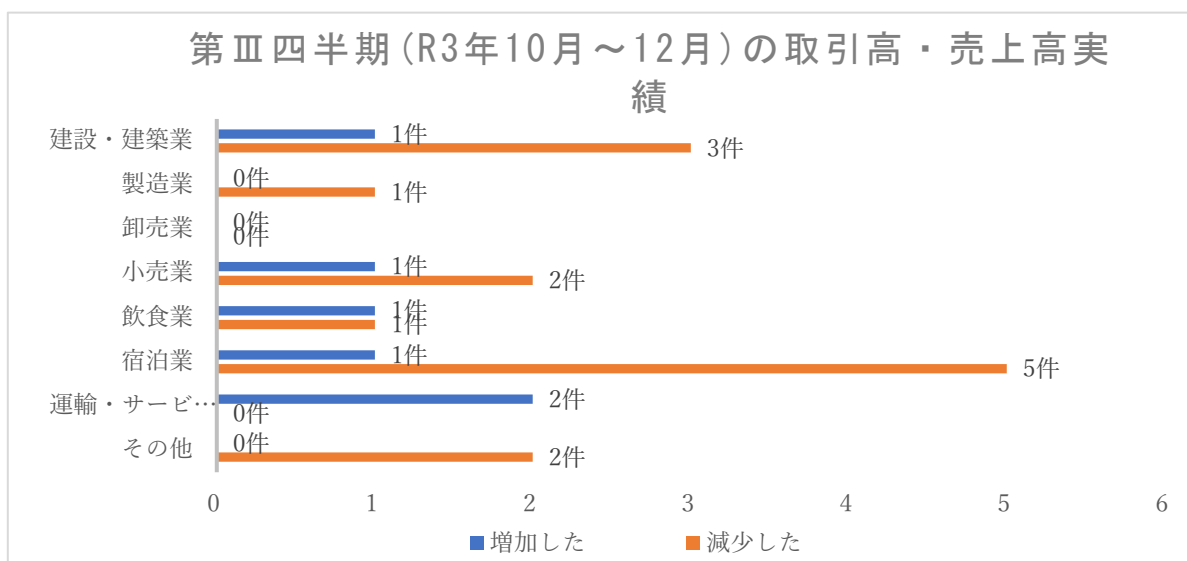
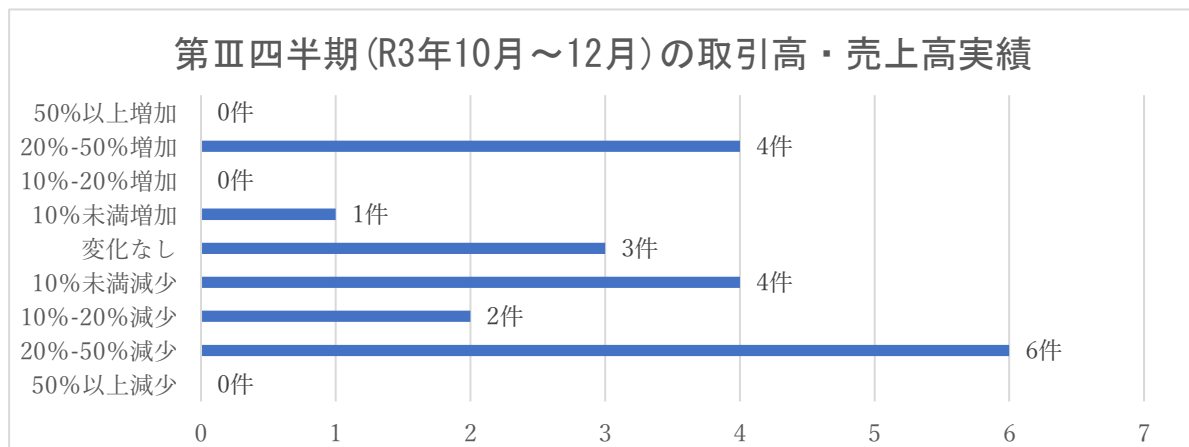
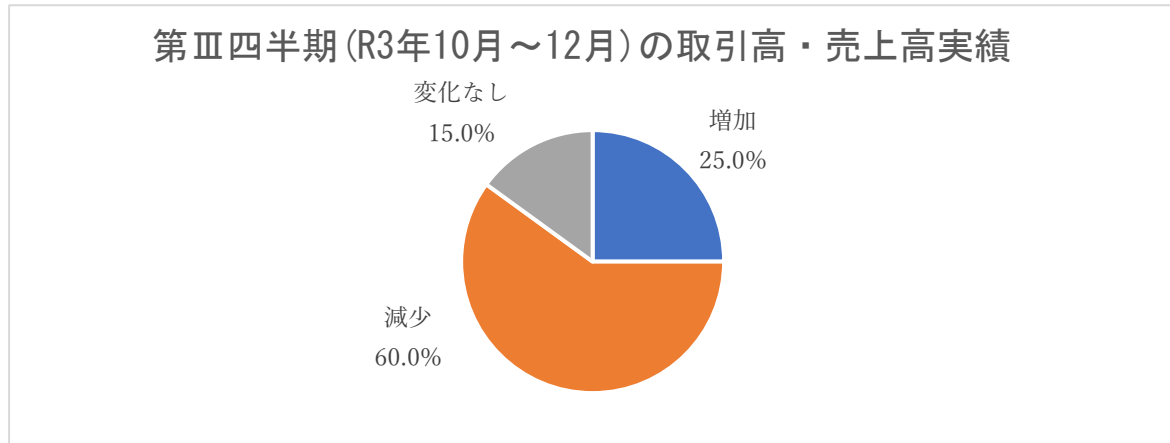
回収アンケート数 計 42件 業種合計 計 49件（複数回答有）



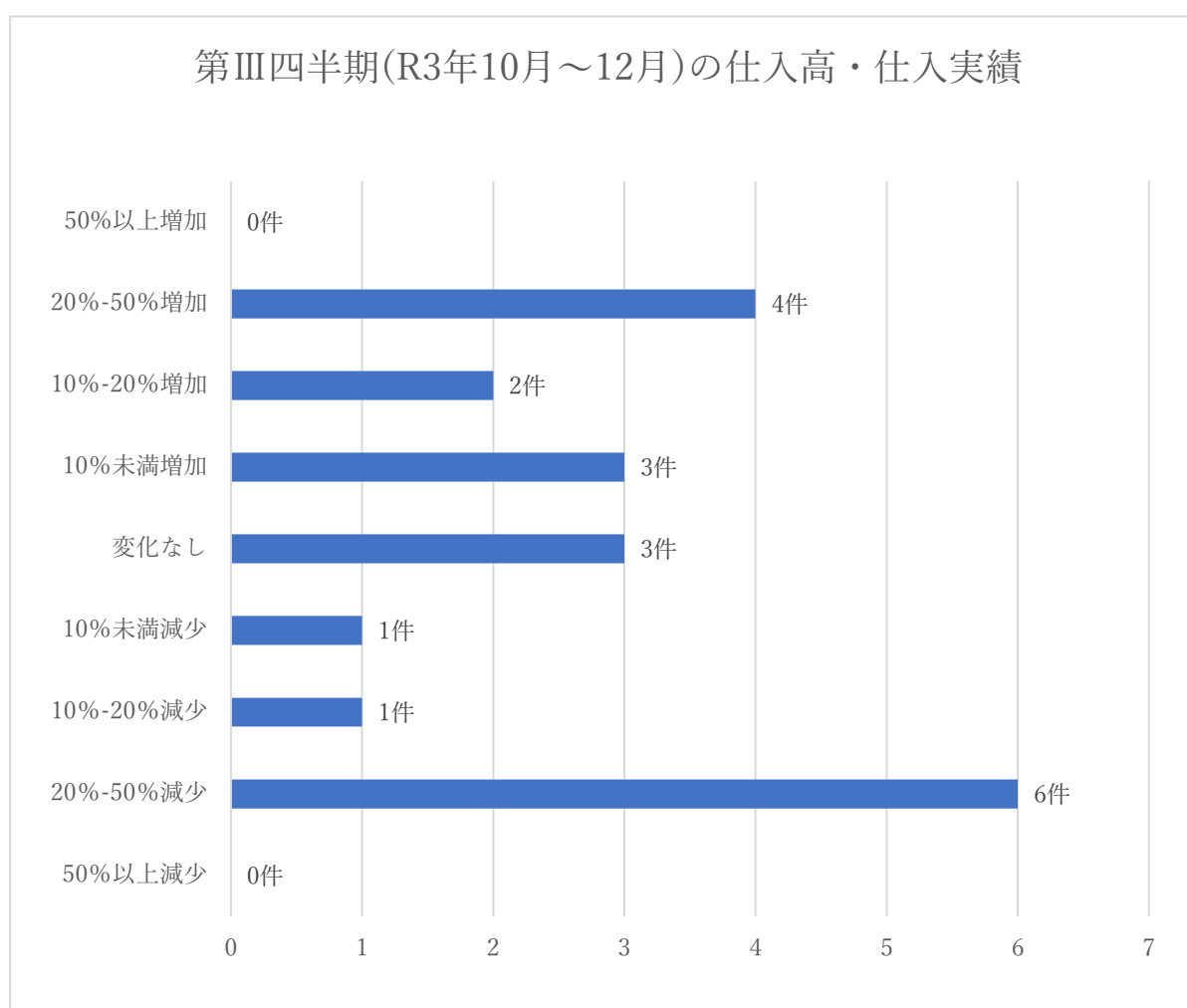
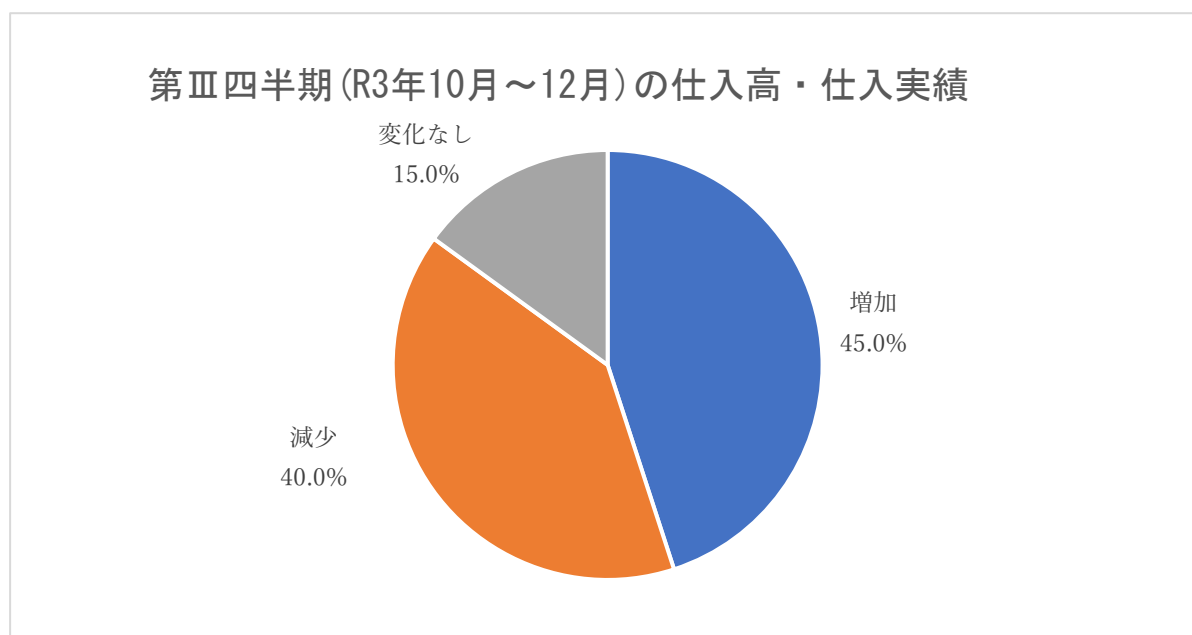
1 前年同期に比べて第Ⅲ四半期(R3年10月～12月)の取引高・売上高実績について

第Ⅲ四半期(R3年10月～12月)の取引高・売上高実績は、回答頂いた25.0%の事業者が増加、60.0%の事業者が減少、15.0%の事業者が変化なしと回答している。

業種別にみると、宿泊業が減少と回答した割合が多く、次点建設・建築業となっている。

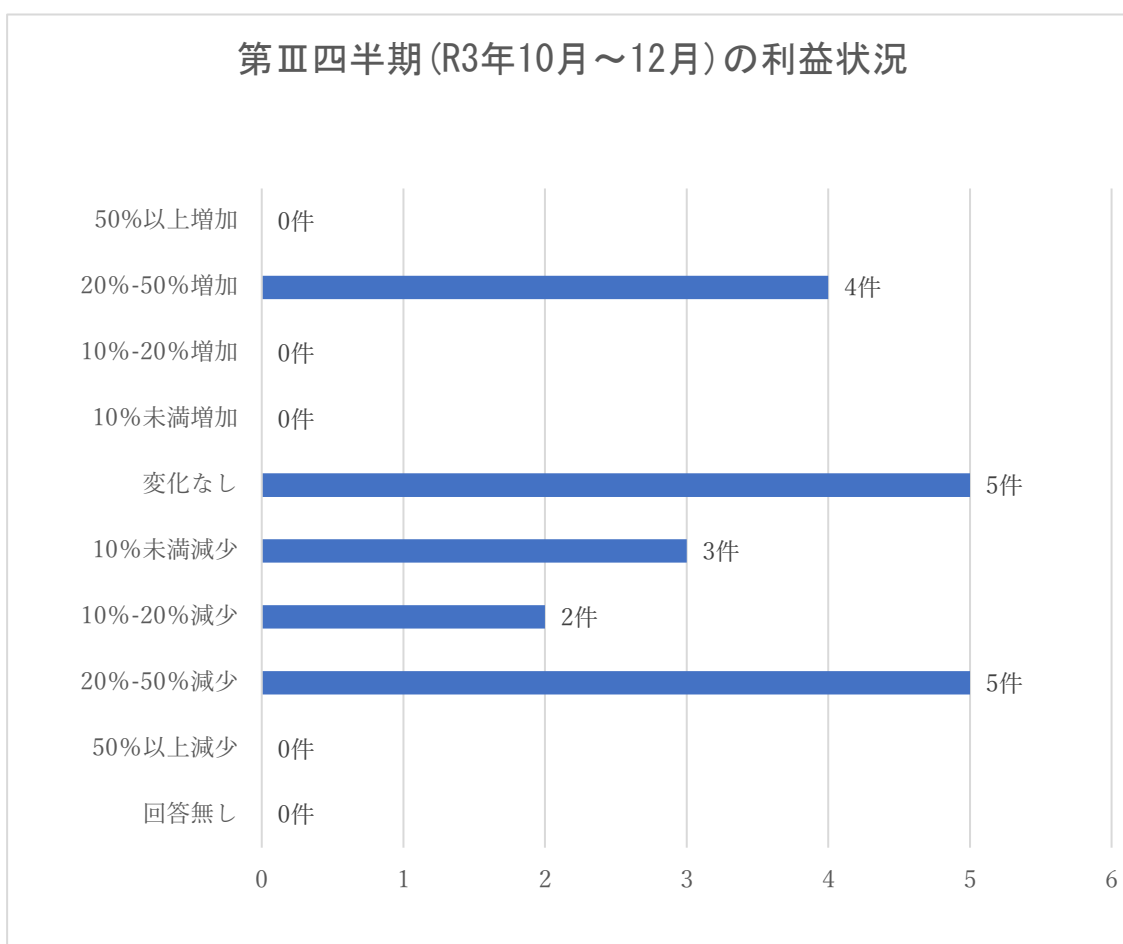
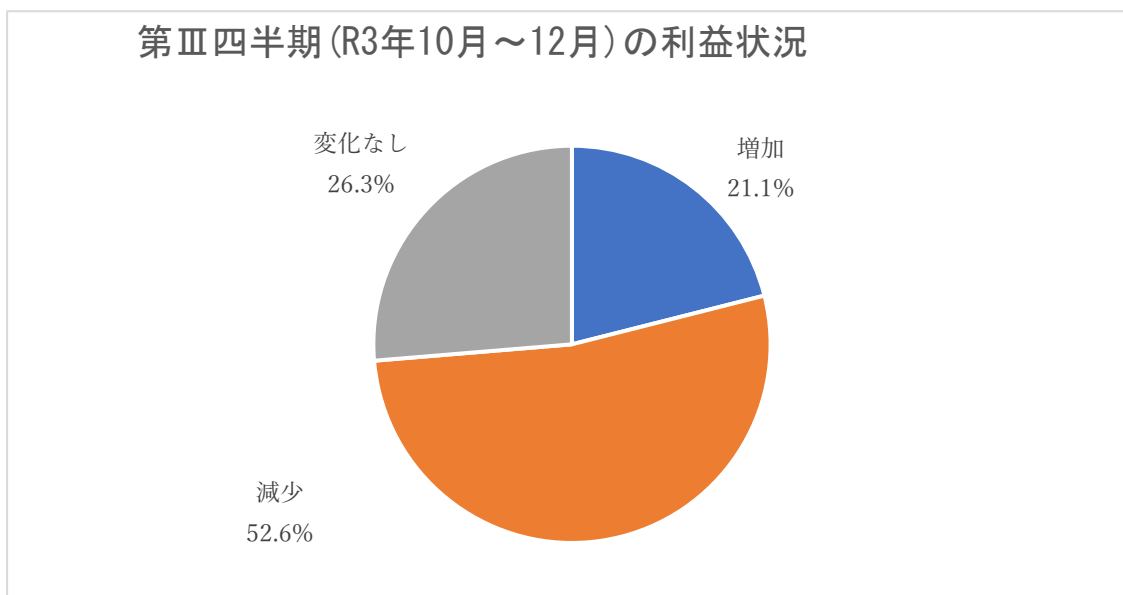


2 前年同期に比べて第Ⅲ四半期(R3年10月～12月)の仕入高・仕入実績について
第Ⅲ四半期(R3年10月～12月)の仕入高・仕入実績は、回答頂いた45.0%の事業者が増加、40.0%の事業者が減少、15.0%の事業者が変化なしと回答している。



3 前年同期に比べて第Ⅲ四半期(R3年10月～12月)の利益状況について

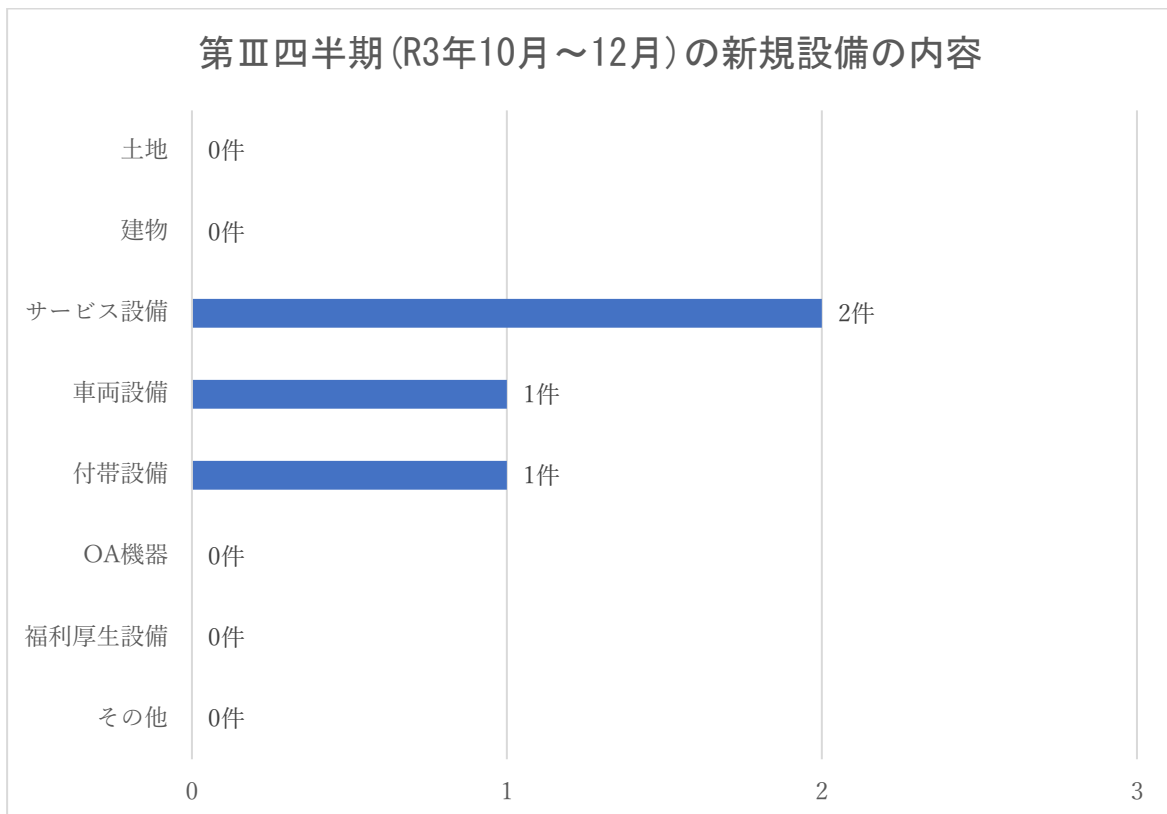
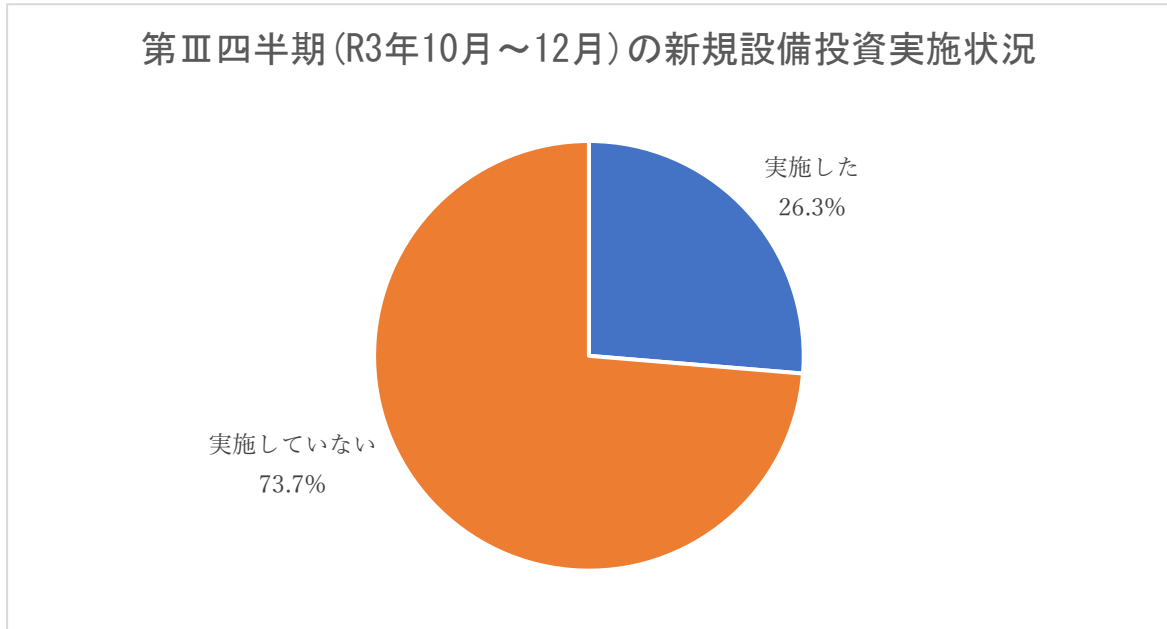
第Ⅲ四半期(R3年10月～12月)の利益状況は、回答頂いた21.1%の事業者が増加、52.6%の事業者が減少、26.3%の事業者が変化なしと回答している。



4 第Ⅲ四半期(R3年10月～12月)の新規設備投資について

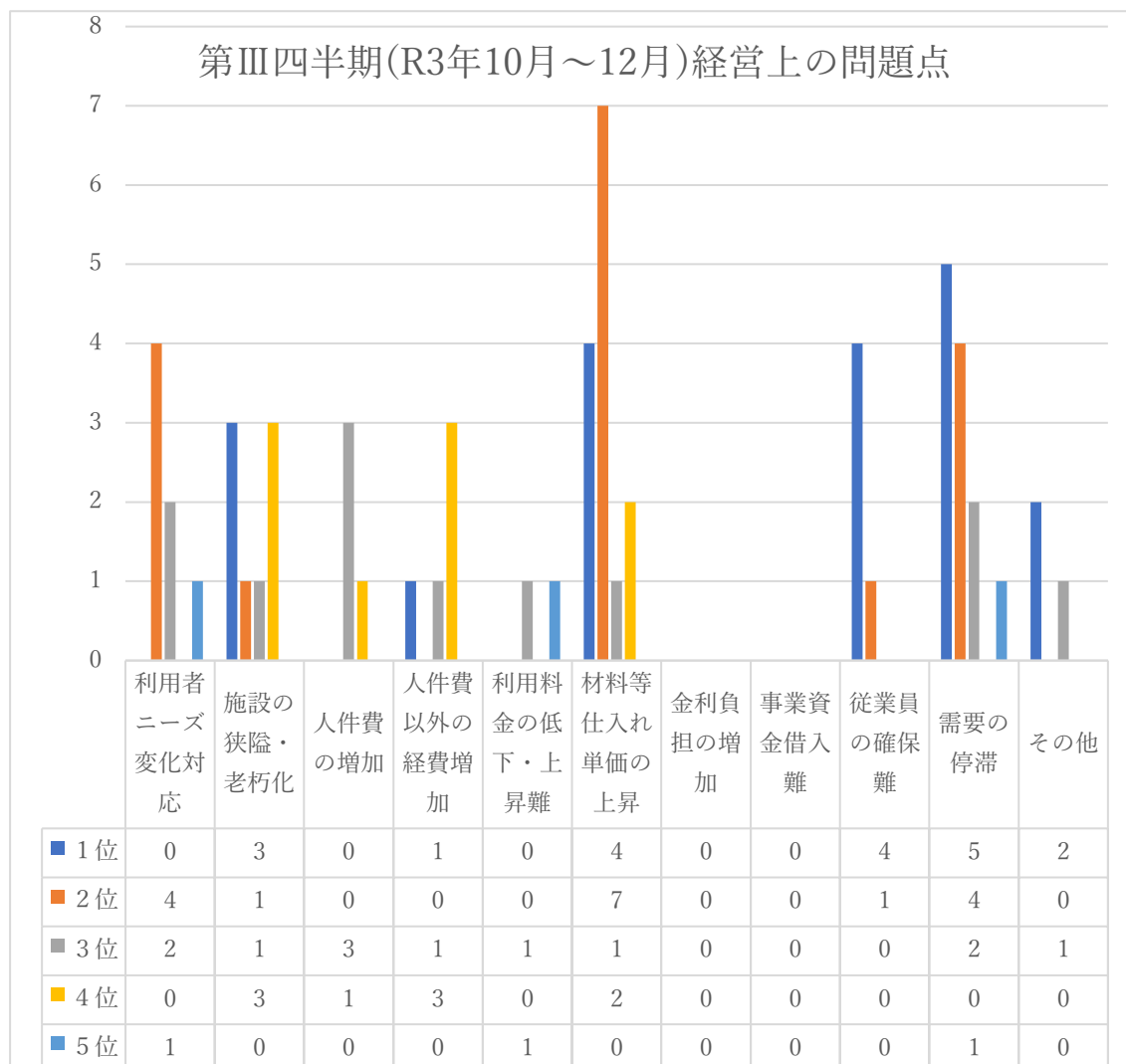
第Ⅲ四半期(R3年10月～12月)の新規設備投資実施状況として、26.3%が実施しており、73.7%が実施していないと回答を頂いた。

投資した内容としては、サービス設備・車両設備・付帯設備となっている。



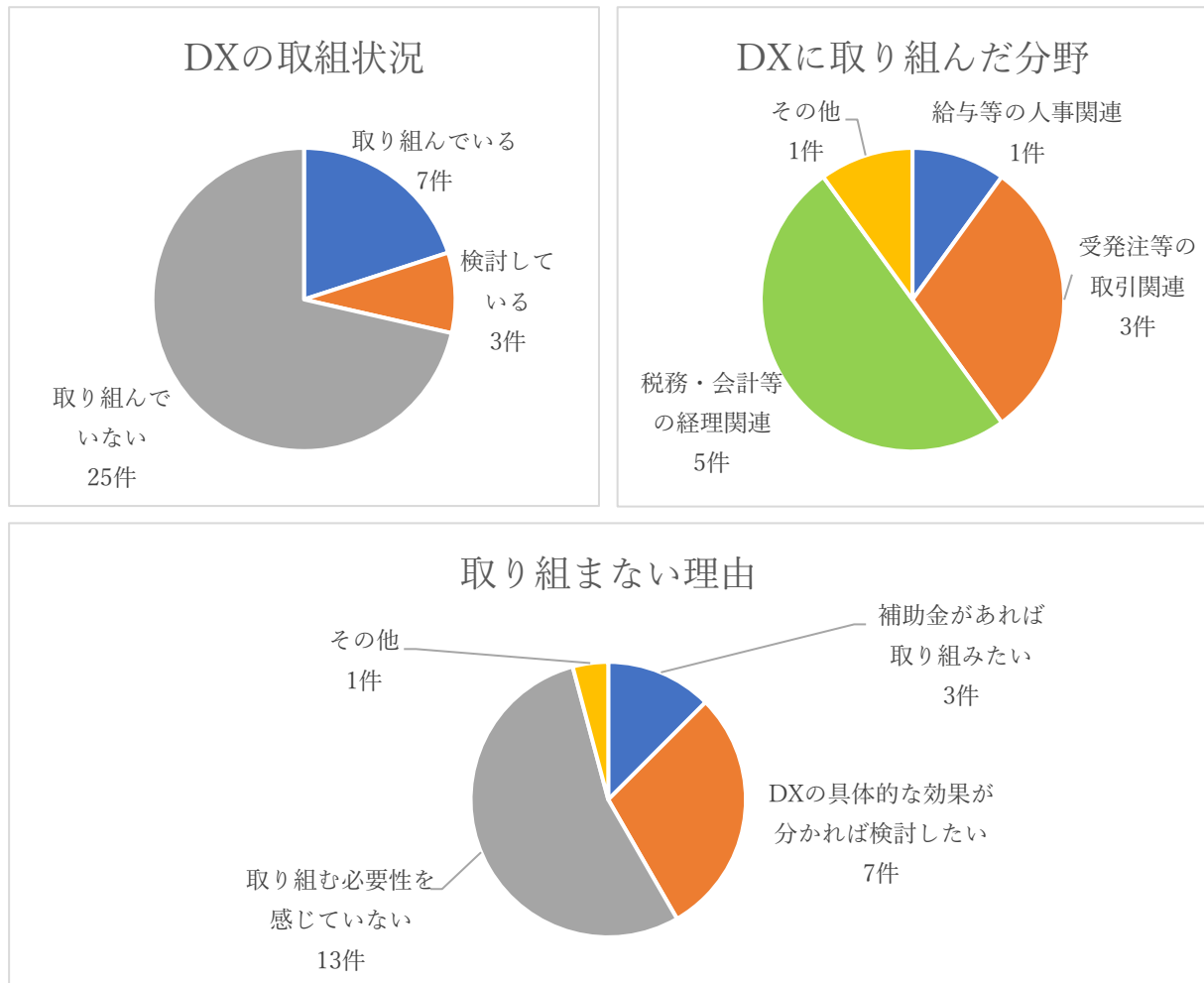
5 第Ⅲ四半期(R3年10月～12月)直面している経営上の問題点

第Ⅲ四半期(R3年10月～12月)に直面している経営上の問題点として一番多く回答されたのが『需要の停滞』であり、次いで挙げられたのが、『材料等仕入単価の上昇』『従業員の確保難』であった。



6 DX（デジタルトランスフォーメーション）の取り組み状況について

DXの取り組み状況については、取り組んでいる又は検討している事業者数よりも、取り組んでいない事業者数が大きく上回っている。また、補助金による支援や具体的な効果が分かれば取り組みたいとの回答もあった。



以下【その他】であげられた回答を原文のまま掲載しております。

設備投資	宿泊業	補助金を利用した
経営上の課題	飲食業	コロナによるキャンセル
	製造業	ウツショックによる材料の入手困難・価格上昇
	小売業	コロナ禍による納期遅延
	小売業	新型コロナウイルス感染症拡大の影響
	小売業	コロナの影響が大きい
	卸売業	卸先とのコミュニケーション不足
DXについて	飲食業	宿泊は1組限定なので不要
	宿泊業	料金が低い
	卸売業	需要の停滞が続いているため(不要)
	その他	全業務のDX化を推進している